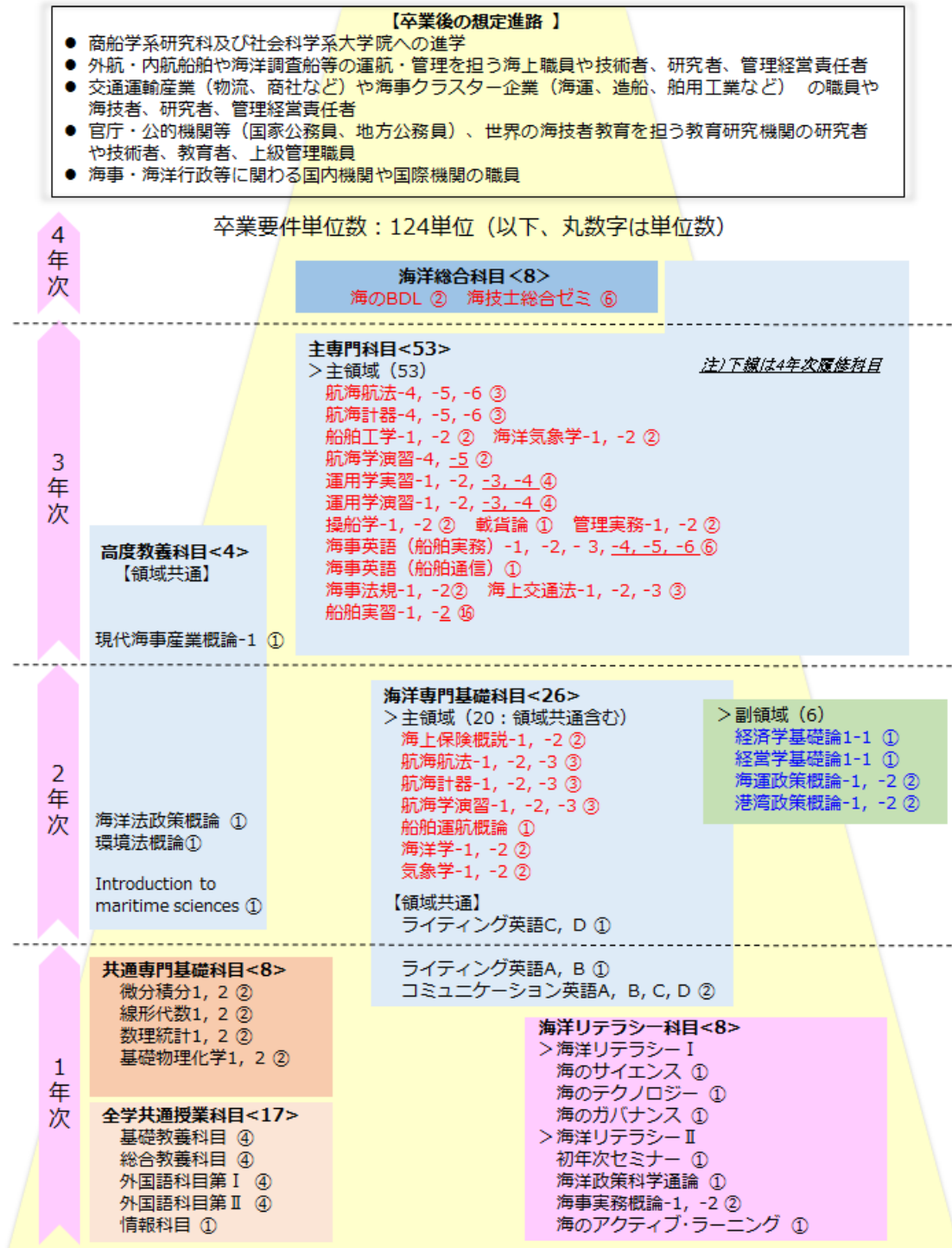


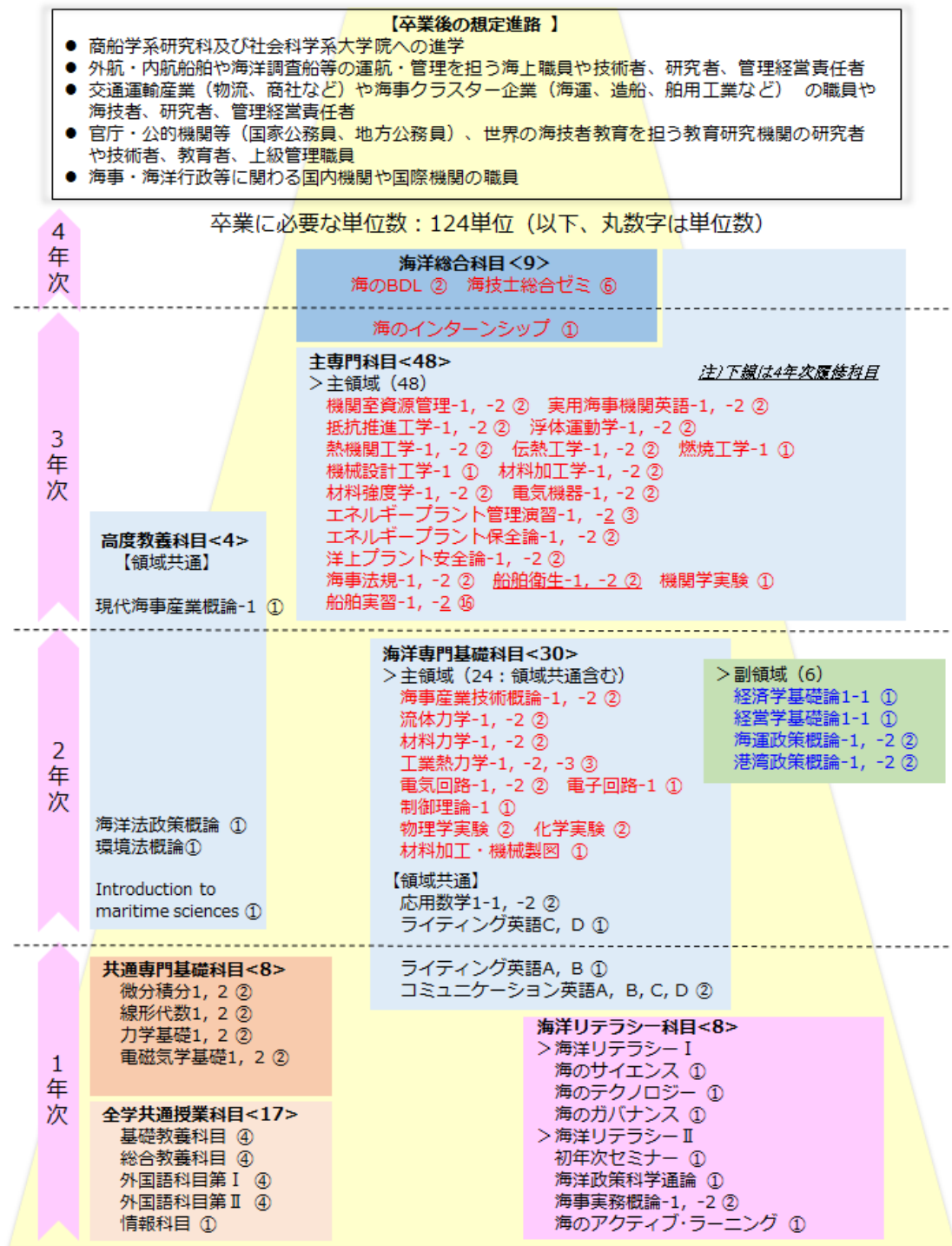
図表9 (d) 海技ライセンスコースを主領域とする場合の履修モデル  
(主領域：航海学領域 副領域：海洋ガバナンス)

○履修モデル **主領域：海技ライセンスコース(航海)** **副領域：海洋ガバナンス**



図表 9 (e) 海技ライセンスコースを主領域とする場合の履修モデル  
(主領域：機関学領域 副領域：海洋ガバナンス)

○履修モデル **主領域：海技ライセンスコース（機関）** **副領域：海洋ガバナンス**



## 6.6 履修指導の方法

学部のカリキュラムの特徴から、学生は2年次の仮配属のために、早期に自らの主専門領域を意識して、必要な科目を履修していく必要がある。そのため、入学直後から履修指導を毎年継続的に実施する。図表 10 とともに以下に詳細を示す。

### (1) クラス担任制

1年次学生に対しては、学籍番号によるグループ編成を実施し、全体として5～8人の教員で就学指導を行うクラス担任制を実施する。クラス担任の人選にあたっては、2年次以降の各専門領域における学生指導に対応できるように、予め教員の専門性を考慮して決定する。クラス担任団は、担当する入学年度生が卒業するまで指導担当となる。

### (2) 履修指導の機会

- ・ 1年次： 入学時の新入生ガイダンスの他、第1クォーターの初年次セミナー及び第2クォーターの海洋政策科学通論などの講義を活用し、学部の履修システムや学びの概要を十分理解できるように指導するとともに、各学生が自己の履修計画を作成するよう指導を行う。また、1年次の全学共通科目は、本学部のある深江キャンパスから離れた鶴甲第一キャンパスで行われるため、これらの授業で必要単位数を修得できない場合、2年次以降の履修計画に影響を及ぼすことから、進級制度に関する十分な注意を促す必要もある。後期の授業開始時期にも履修ガイダンスの機会を設ける。
- ・ 2年次から3年次： 前期及び後期の授業開始日にクラス担任による履修ガイダンスを開催する。2年次から主領域への仮配属が実施されるが、そのため、1年次において、主として学ぶ専門及び副として学ぶ専門科目を個々の学生が意識して、履修科目を選択していかねばならないことから、きめ細かい履修指導が必要となる。そのため、学生の主専門及び副専門領域の選択に関する相談に対応できるようにクラス担任をそれぞれの専門性に近い専門領域の担当者として再編し、学生へ周知する。これにより、学生は個々の進路に合わせて適切なクラス担任に就学相談が可能となる。
- ・ 4年次： 学生は、研究室に配属されて特別研究を開始することから、クラス担任に加えて研究指導教員による二重の履修指導体制が整えられる。研究指導教員は、学生にとってクラス担任よりも身近な指導教員となることから、就学指導の他、就職指導などにも丁寧な対応を可能とする。
- ・ その他： 就学、大学生活、進路などに関係する事項について気軽に相談できる機会として、毎年2回程度、課外行事として、クラス担任が学生を集めてクラス懇談会を開催する。

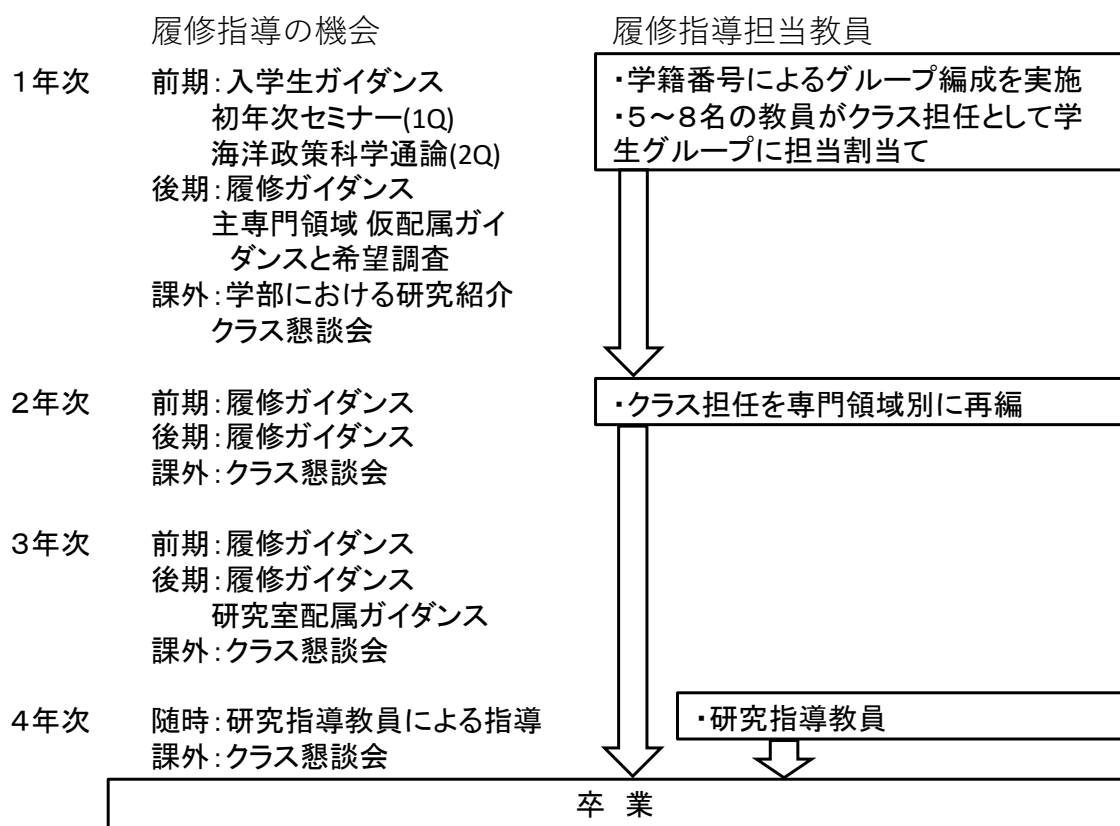
### (3) 主専門領域での研究に関する情報提供

2年次での主専門領域への仮配属のため、学生は1年次の内に3年次の主専門領域の科目及び副専門領域の科目の履修選択を考慮して、自らの進路を考えねばならない。そのため、クラス担任が中心となり、専任教員の協力を得て、それぞれの専門領域の学びに関係する研究内容や将来の進路について情報提供を行うことを目的とした研究紹介を課外の時間帯に企画するなどして、主副専門領域の科目への興味を促す。

(4) 研究室配属ガイダンス

3年次後期において、4年次の特別研究を履修するための研究室配属に関するガイダンスをクラス担任団が実施する。ガイダンスでは、専門領域の学びと研究との関係が確認されるとともに、特別研究を指導する教員の研究室紹介及び進路等の情報も提供される。全ての専任教員が、担当科目に密接に関係する専門領域を含めて研究指導が可能な専門領域（複数可）を学生へ示し、原則として4人まで学生を受け入れる。研究室配属は、第一に学生の希望を尊重するが、希望者が定員を上回った場合、GPAによる成績評価等を勘案して配属が決定される。

図表 10 入学から卒業までの履修指導の概要



## 6.7 学位論文の単位数

学位論文は、4年次に取り組む特別研究において作成される。一般3領域では、通年の必修科目「特別研究A」を、海技ライセンスコースでは、「特別研究B」か「海技士総合ゼミ」のどちらかを選択する選択必修科目としており、乗船実習科へ進学し、海技士ライセンス資格を持って船社へ就職を希望する学生が前者を履修し、学部卒業後に大学院へ進学して商船学を追求する学生や就職する学生が後者を履修することを想定している。海技ライセンスコースの学生は、海技士ライセンスの取得希望の有無に関わらず、4年次1月から3ヶ月間、独立行政法人海技教育機構の大型練習船による船舶実習2を履修するため、「特別研究B」は第1クォーターから第3クォーターで開講する。特別研究は、各研究室に所属し、直接研究指導教員から研究指導を受け、より専門的な研究に取り組み、学位論文の作成を行う。研究計画、研究の実施、報告書の作成、プレゼンテーションの一連の作業を学生が主体的に取り組む。基本的に3年次までに必要な単位を履修できていれば、4年次における授業は、前期の必修科目「海のBDL」及び「特別研究A」のみとなり、多くの時間を特別研究に費やすことができる。特別研究の単位の換算を演習・実習・実験と同様に1単位30時間以上として定めれば、一般3領域の「特別研究A」では、平均90分/日の実施を想定して、前期の4ヶ月で約120時間の実施が見込めることから4単位と換算でき、通年で8単位とするのは妥当であり、また、海技ライセンスコースの「特別研究B」では3クォーターでの実施となることから6単位とした。

## 6.8 CAP制

海洋政策科学部では、学習効果を維持するため、卒業判定の他に修学上の制約を設ける。それらの目的及び条件は以下のとおりである。

### 【CAP制（履修科目の登録の上限）】

過度な履修申請により、授業時間以外での予習、復習などで学習時間を損なうことがないように、以下の考えに基づき履修科目の登録に上限を設ける。

卒業要件単位が124単位であり、このうち、4年次の「海洋総合科目」の必修単位が10単位（海技ライセンスコースは8単位）であることから、3年間で114単位以上を修得することが望ましい。すなわち、約40単位/年が最低限修得すべき単位数として見積もられる。単純に一週間の科目数に換算すれば10科目/週となり、平均2科目/日の履修となる。この科目を講義と仮定すれば、1クォーターで1単位を得るために、1日あたり予習・復習時間は2科目で約4時間と見積もられ、授業時間以外で十分な学習時間を確保できる無理のない時間である。実際には、学生個々の興味による履修科目数の変動や単位の取りこぼしなども考慮に入れば、1週間10科目以上を履修することが標準的モデルであると考えられる。しかしながら、1日3科目（15科目/週）では、講義と予習・復習にかかる実質的な時間が12時間ほどになり、課外での学習時間の確保が困難になると考えられることから、無理のない履修単位数の上限値は130%程度まで（40単位/年×1.3=52単位/年）とするのが妥当であると判断し、卒業要件科目を対象として1年間に履修登録できる上限単位数を52単位とする。なお、成績優秀者など、上記の考え方で統一的に扱えない場合に対しては、52単位/年の上限を超えて認めることができるように考慮する。

## 6.9 3年次進級判定、「海のBDL」科目の履修許可判定及び卒業判定

学生が各々の将来の進路へ向け、本学部カリキュラム・ポリシーに則り、着実な学習を促すことでディプロマ・ポリシーを達成するため、図表 11 に示すように、3年次への進級判定、4年次の科目区分「海洋総合科目」にある「海のBDL」の履修許可判定、及び4年次末の卒業判定を行う。詳細を以下(1)～(3)に述べる。

### (1) 3年次への進級判定

神戸大学の全学共通授業は、六甲台地区の鶴甲キャンパスで実施され、海洋政策科学部の1年生は、1週間の内4日間を鶴甲キャンパス、1日を深江キャンパスで受講する。2年次になると、1年次の再履修科目がない限り、深江キャンパスでの受講のみとなる。鶴甲キャンパスと深江キャンパスとの間の移動は片道約1時間かかることを考慮すると、3年次以上の学年で、修得すべき鶴甲キャンパスの全学共通科目の単位に不足がある場合、専門科目の履修に影響し、効果的な学習が困難となる。そのため、2年次後期までの修得単位数等を確認し、3年次への進級の可否を判断する制度を設ける。次の(2)で述べるように4年次の科目区分「海洋総合科目」の「海のBDL」を履修するために必要な単位数を100単位と定めることから、3年次にCAP制の下で取得できる上限単位数(52単位)を考慮すれば、2年次末までに取得しておかなければならない最低単位数は、 $(100-52)$ 単位=48単位となる。しかしながら、48単位とする場合、4年間で卒業するためには、3年次にCAP制上限値の52単位を取得する必要があり、全く取りこぼしが許されない状況となる。そのため、2年次までの必要取得単位数を安全側に単位を増やし、48から1割増の53単位とすることで、多少の単位の取りこぼしがあっても3年次に挽回できるように配慮した。以上より、3年次への進級可否の判定ルールを以下のとおり設定する。

「本学部に2年間在学し、卒業要件単位数を53単位以上修得し、かつ全学共通授業科目の卒業要件単位数を全て修得した者に対して3年次への進級を認める。」

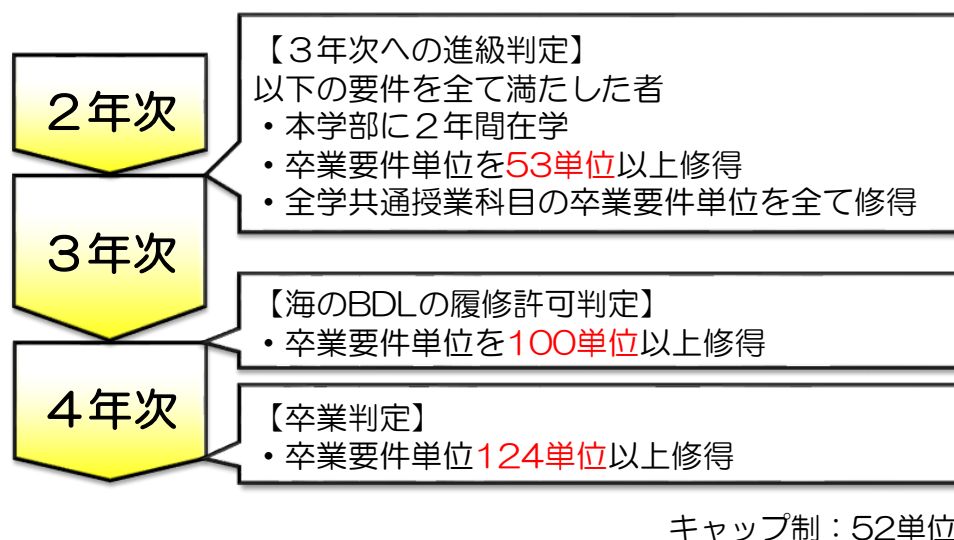
### (2) 「海のBDL」科目の履修許可制度

学部教育の総仕上げとして位置付ける「海洋総合科目」の「海のBDL」、「特別研究A」、「特別研究B」及び「海技士総合ゼミ」を効果的かつ円滑に実施するためには、3年次で学ぶ確かな専門知識や「海のインターンシップ」による実社会での職業及び海洋調査体験が必要となる。そのため、3年次までに最低限必要な知識が修得されているか否かを判断するために、3年次から4年次への進級の際に、「海洋総合科目区分」の「海のBDL」の履修の可否について判定する制度を設ける。4年次に履修する「海洋総合科目」の内、必修科目の単位数が、一般3領域で10単位、海技ライセンスコースで8単位である。したがって、4年次の必修科目履修のために最低限必要な3年次末までの修得単位数は、一般3領域で114単位、海技ライセンスコースで116単位となる。これらの数値を勘案し、その85～90%程度を最低限取得しておくべき単位数として、100単位を下限として設定する。したがって、「海のBDL」を履修するために必要な3年次末までに修得すべき単位数を「卒業要件単位数のうち100単位以上」とする。

### (3) 卒業判定

海洋政策科学部のカリキュラム・ポリシーに則り、卒業要件単位数124単位の取得の確認によって判定し、卒業許可を与える。

図表 11 3年次進級判定、「海のBDL」の履修許可判定及び卒業判定の概要



#### 6.10 他大学における授業科目の履修

神戸大学教学規則に基づき、教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学(国内外含めて)との協定により学生に当該大学または短期大学の授業科目を履修させることができるものとする。また、やむを得ない事情がある場合、教授会の議を経て、協定に基づかない他大学・短期大学の授業科目の履修を認めることとする。他大学・短期大学で修得した単位は、60単位を超えない範囲において本学で修得した単位として認める場合があることとする。

#### 6.11 海洋政策科学部における学びの特徴

##### (1) 「海洋リテラシー科目」及びユニークな設備を用いた実践型教育の実施

「海洋リテラシー科目」は、海洋政策科学部において新たに編成する科目区分の1つであり、海洋に関する必須の基礎教養として、本学部学生に対して全て必修科目とする。海洋に関する専門分野への学際的学びに対する意識の向上を図り、主体的な取り組み姿勢を身につけるとともに、海洋に関する教養的知識を身につけることを目的として設置する科目である。

「海洋リテラシー科目」は、海洋に関する専門分野への学際的学びに対する意識の向上を図るため、海惑星である地球の進化、海と人間との関わり、海洋の持続的な開発などの内容を含めた、海洋科学、海洋技術、海洋ガバナンスのテーマで、基礎知識を学ぶとともに、それらの専門性が実社会でどのように活用され、必要とされているのか、グローバルで広範な海洋社会や産業との繋がりなどを知る科目である。また、練習船を有する神戸大学の特徴として、練習船を活用した船舶運航・管理、海上輸送の概要を知るアクティブ・ラーニング科目を設置する。これによって、限られた船内空間での集団・協働学習体験を通して、主体的な取り組み姿勢を身につけるとともに、陸上と異なる海上での活動や海上からの視点を実感し、海上ルールに触れ、実機を目のあたりにすることで、専門分野への学びの意識を培う。

## (2) 「海洋専門基礎科目」の実施

海洋を巡る社会は、グローバルであり、国際関係及び科学技術の進展などの激しい変化に対応し得る統合された知の基盤が必要とされることから、海洋に関する専門科目を学ぶために必要な基礎知識を広く身につけることを目的とした科目を開設する。文理融合の観点から、海洋に関する自然科学や人間活動を複数の学問的視点から学び、また、一つの専門領域を深く学ぶための基盤として必要な学問の知識を身につける。「海洋専門基礎科目」の科目群は、専門科目との関連を学生へわかりやすく示すために、専門科目と同様に関連する5専門領域ごとに編成する。学生は、2年次時点で「主として学ぶ専門領域」を5専門領域の中から見定めて、その専門領域に仮配属となり、主専門領域の専門基礎科目を中心として学び始める。同時に副として学ぶ専門領域も定めて履修することとなる。

## (3) 「主専門科目」の選択自由度

海洋に関する自然科学、科学技術及び社会科学の専門的知識及び技能をより深く学び、身につけるための「主専門科目」では、一般的に2年次で仮配属となった領域に本配属され、主として学ぶ専門領域及び副専門領域の2つの専門性を中心とした科目を選択履修する。領域内での科目選択は自由であり、また、主専門科目で設定されている最低限の卒業要件単位数を超える単位分については、領域の制限なく個々の学生の興味に応じて自由に科目選択ができるシステムとしている。また、海技ライセンスコースでは、船舶運航及び海上輸送に関わるシステム全体を管理・評価できる専門的能力及び技能を身につけるための専門科目を開設し、海技士ライセンス資格に必要な基盤となる科目については、修得漏れを防ぐために必修科目に設定している。

## (4) 「海のインターンシップ」の実施

海洋分野における産業・行政・研究の機関における就業体験及び事前・事後指導を通して、海洋社会の実務実践の一端に触れ、社会人としての基本的なルール、マナー及び職場の雰囲気を知り、学生自ら将来の職業に対する意識と社会貢献の意欲を形成することを目的として、海洋総合科目区分の選択科目「海のインターンシップ」（1単位）を設け、キャリア設計及び選択の機会を提供する。

「海のインターンシップ」は原則として3年次の夏季休業期間中に開講し、実習（学外機関における就業体験）は1日8時間で概ね1週間を基本とする。インターンシップの受入機関は、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）、独立行政法人海技教育機構（JMETS）など海洋の調査研究・教育訓練に関する公的法人、国土交通省、神戸市港湾局など海事行政・港湾行政に関する国及び地方行政機関、一般財団法人日本海事協会（ClassNK）、一般社団法人日本海事検定協会（NKKK）、海洋政策研究所（笹川平和財団）、国際海事大学連合、海事・海洋系シンクタンク、海運企業、造船企業、物流企業などの諸団体及び民間企業であり、実施規模は、受入機関数が40機関以上、履修可能学生数が120名以上（海洋政策科学部学年定員の60%以上）を予定している。また、内閣府総合海洋政策推進事務局や国際海事機関等への派遣可能性を探る。

以上の企業や機関からの募集要項を取りまとめて学生に提示し、学生は自己のキャリア設計に関連した機関を選択して履修する。インターンシップ先の選考・決定、事前・事後指導は、学部の専任教員（教学委員会の下に置いた「インターンシップ・就職対策専門部会」）が対応する。事前指導では、就業規則の遵守、守秘義務及び労働安全などを教授し、実習中の学生はインターンシップ実習日誌等による受入機関の指導者の確認を受け、帰学後に専任教員に報告書を提出し、事後指導を受ける。受入機関の指導者による学生の評価報告と学生自身による報告書及び事前・事後指導に基づき、成績を判定



する。

#### (5) 「海のBDL」の実施

4年次前期の海洋総合科目として、「海のBDL (Beyond Disciplinary Learning : 境界突破型ワークショップ)」を必修科目として開講する。BDLは、「海洋リテラシー科目」、「海洋専門基礎科目」及び「専門科目」の学びを通して修得した多様な知識を基盤として、自ら課題を見い出し、広い視野で物事を判断できる能力を養うため、主専門領域に配属された学生が再結集し、専門領域の異なる学生同士でチームを組み、海洋に関わる具体的な課題の解決提言に取り組む科目である。修得した知識・技能を総合的に活用し、海洋分野の諸課題の発見や解決を図るための柔軟な思考力と対応能力を身につける。これらは、本学部での学びの総まとめを図る科目として位置付ける。

##### 【BDLの実施概要】

- 前期の Semester 授業として開講：週次表に開講コマを設定するが、実質的作業の多くは、学生グループ毎の主体性に任せ、実施スケジュールに柔軟性を持たせることで、就職活動等への対応にも学生グループ内の主体的な調整によって対処可能とする。
- 演習科目の位置付けとし、2単位とする。
- 海洋基礎科学、海洋応用科学、海洋ガバナンス及び商船学を専門とする異なる専門分野の教員3名を基本として1グループを編成する。すなわち、4グループでの編成を例とした場合では12人の教員が担当教員となる。
- 1教員グループが1学生グループ(50人)を指導する。
- 1学生グループ(50人)をさらに5人ずつ10班編成し、共通のテーマを与え、各班同士で解決策を競い合う内容とする。
- 週に1コマ、作業の進捗状況の報告会を学生グループごともしくは全体で実施し、検討の方向性などについて指導教員が助言する。
- 最終的に、各班の代表者により成果発表を実施する。グループ発表の内容を評価するとともに各自にレポートを提出させて、最終評価を行う。

#### (6) 他学部との授業連携

本学部での学びをより効率的に拡張するため、神戸大学の他の5学部(理学部、工学部、経済学部、経営学部、法学部)で開講されている科目について、学生の履修計画に基づき、履修を可能とする。

#### (7) 国際交流活動

神戸大学の海外交流提携大学のうち、海事科学部が中心となって築き上げてきた大学に加え、理学部及び国際協力研究科を通じた提携大学により、従来のネットワークを生かし、積極的な国際交流活動を展開する。

## 7 施設・設備等の整備計画

### 7.1 校地、運動場の整備計画

海洋政策科学部の教育・研究を支える校地は、神戸大学の深江キャンパスである。深江キャンパスには、海洋底探査センター、海洋教育研究基盤センターが設置されており、本学が、船舶を有する総合大学の強みを生かして、「海」を基軸とした教育・研究を推進する「海の神戸大学」を目指していく上で、重要なキャンパスである。

また、附属図書館分館、保健管理センター分室、食堂等の福利厚生施設が充実しており、本学部が新設されても十分な施設を備えている。

運動場については、鶴甲第一キャンパス内に設置されているグラウンド(27,535㎡)、体育館(2,477㎡)を主に使用するが、深江キャンパス内においても、グラウンド(約24,043㎡)、体育館(1,516㎡)、屋内プール、テニスコート、弓道場が整備されている。

学生が休息するスペースは、学生フリールーム(TATSUMI Lounge)、ラウンジコーナー(WORLD MARINE Lounge)、ウッドデッキテラス、課外活動共用施設等が整備されている。

さらに、学生が自由に出入りして、多様な人々と交流しながら学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを实践する場として、ラーニングcommonsを整備し、学びのコミュニティを形成する。

### 7.2 校舎等施設の整備計画

教室については、1学年の学生定員200名を収容できる大講義室(2室)、海洋リテラシー科目や専門科目を開講するための講義室、演習等を行うためのセミナー室や演習室、情報処理演習室、実験室等を深江キャンパスの既存施設の中で、学生の動線に十分配慮しながら確保・整備する。

教員の研究室についても、深江キャンパスの既存施設の中で教員団としてまとまりを形成できる位置に確保し、セミナー室やオープンラウンジを近接させて、教員と学生のコミュニケーションがスムーズに図られるよう整備する。

### 7.3 図書等の整備計画

本学には、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、自然科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館、経済経営研究所図書館、医学分館、保健科学図書室及び海事科学分館を有しており、概ね平日8時45分から21時まで利用可能となっている。蔵書している図書は3,784,027冊で、本学部がある深江キャンパス内の海事科学博物館には254,990冊を有しており、必要な時に随時貸出可能としている。

また、電子ジャーナル、データベースを整備し、本学の構成員であれば学内ネットワークに接続されたパソコンなどから利用することができる。さらに、自宅などの学外からも利用できるサービスも提供している。

以上のように、必要な施設・設備は整備されているが、今後も必要に応じて整備・拡充する。

## 8 入学者選抜の概要

### 8.1 海洋政策科学部が求める学生

海洋政策科学部は、海洋の持続可能な開発・利用と海洋環境の保全、海洋産業の発展、海洋進化の科学的探求、海洋に係る法秩序の安定、国際的協調と総合的管理に貢献できる人材の育成を目標として掲げ、海洋に対する幅広い教養を基に、国際性、人間性、創造性及び海洋に関する自然科学、科学技術及び海洋ガバナンスに係る専門性を身につけた海洋立国を牽引する海のグローバルリーダー及び海のエキスパートを育成することを目指して教育・研究を推進する。そのため、本学部の教育・研究理念を理解し、本学のカリキュラムに則って将来の海洋社会へ貢献するために自己研鑽できる意欲的な学生を求める。本学部が求める学生像を整理すれば以下の4項目となる。

- (1) 海洋に関わる自然科学、科学技術及び海洋政策に興味を持つ学生、及び将来海や船に関わる社会への貢献に関心や意欲のある学生  
〔求める要素：関心・意欲〕
- (2) 海洋を巡る国際秩序の安定や海洋開発・海洋産業技術分野へ貢献するために必要な主体性や協働性を意識して学べる学生  
〔求める要素：主体性・協働性〕
- (3) 海洋分野における自然科学、科学技術及び社会科学の知識を基盤として、問題の発見と解決のために意欲的に取り組める学生  
〔求める要素：思考力・判断力・表現力〕
- (4) 海洋に関する幅広い教養から専門知識・技術の修得はもとより、語学力（英語）とそれらに基づくコミュニケーション能力の向上に意欲的に取り組める学生  
〔求める要素：知識・技能〕

### 8.2 選抜方法

海洋政策科学部の入学者選抜は、一般入試、「志」特別入試、私費外国人特別入試及び第3年次編入学試験により実施する。第3年次編入学試験では、「学力試験による入学者の選抜」及び「推薦による入学者の選抜」を実施する。また、一般入試においては、理系科目重視型入試及び文系科目重視型入試の2つの型の入試を実施する計画である。

#### (1) 一般入試

一般入試は、分離分割方式による「前期日程」及び「後期日程」により実施する。2021年より大学入試センターが実施を予定している「大学入学共通テスト」を利用する予定である。2020年4月現在、予定している「大学入学共通テスト」の教科・科目は、理系科目重視型入試の場合、5教科7科目、個別学力検査の実施教科・科目は、前期日程で3教科4科目、後期日程で2教科2科目である。教科・科目名は以下のとおりである。

#### 【理系科目重視型入試】

- 大学入学共通テストの利用教科・科目〔5教科7科目〕

国語	国語
地歴公民	世界史B、日本史B、地理B、倫理、政治・経済から1
数学	数学I・数学Aと (数学II・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1)の2
理科	物理と(化学、生物、地学から1)の2
外国語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1

- 個別学力検査の実施教科・科目 [3教科4科目]  
 (前期日程) 募集人員: 115人  
   数 学 数学 (理系)  
   理 科 物理と (化学、生物、地学から 1) の 2  
   外 国 語 英語
- (後期日程) 募集人員: 40人  
   数 学 数学 (理系)  
   外 国 語 英語

文系科目重視型入試の場合、5教科8科目、個別学力検査の実施教科・科目は、前期日程で2教科2科目、後期日程で2教科2科目としている。

**【文系科目重視型入試】**

- 大学入学共通テストの利用教科・科目 [5教科8科目]  
   国 語 国語  
   地歴公民 世界史B、日本史B、地理B、倫理、政治・経済から 2  
   数 学 数学Ⅰ・数学Aと (数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から 1) の 2  
   理 科 (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から 2)  
           または (物理、化学、生物、地学から 1)  
   外 国 語 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1
- 個別学力検査の実施教科・科目  
 (前期日程) 募集人員: 30人  
   国 語 国語 (古文、漢文を除く)  
   数 学 数学 (文系)  
   外 国 語 英語

(後期日程) 募集しない

本学部において、文系科目重視型入試を経て入学した学生が希望する専門領域は、主に海洋ガバナンスまたは海技ライセンスコースの航海系と想定される。社会科学分野の質の高い専門教育を実施するためには、理系学生とのレベル差緩和の必要性から比較的高いレベルの数学の知識が必須となる。そのため、本学部の文系科目重視型入試においては、「数学」を重要視した入試を実施する。

文系科目重視型入試において、大学入学共通テストの科目は、「地歴公民」を2科目指定とする。1科目指定とする場合、理系入試の指定科目に包含（「理科」で物理・化学・生物・地学を選択した場合）されるため、共通テストの結果によって理系の受験生が文系入試へ流れることが危惧され、文系科目重視型入試を実施する意義が失われる可能性があることから2科目指定とした。また、「理科」については、知識の「幅広さ」と「深さ」に選択の自由度を与える目的で、「(物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎から 2) または (物理・化学・生物・地学から 1)」とする。

前期日程の個別学力検査における「国語」については、古文及び漢文を除く現代文のみの出題とし、本学部のカリキュラム・ポリシーを踏まえて、「数学」の重要性を優先する。すなわち、海洋政策科学部の社会科学系専門領域の科目を履修し、専門性を身につけるためには、高度な数学能力が要求されること、少なくとも2年次までは理系学生と同等の数学講義を受け、数学力を高める必要がある。授業を円滑に効果的に実施するためにも、前期日程の個別学力検査における「数学 (文系)」の導入は必須であると判断した。また、文系科目重視型入試は、本学部での学びを一意に望む学生の獲得をより重要視して、前期日程のみ行い、後期日程での募集は行わないこととする。

## (2) 特別入試（「志」特別入試）

神戸大学は、人材育成の展開の一環として、それぞれの分野のリーダーとなって 21 世紀の人類社会に大いに貢献する意欲と高い志を持つ学生を見出すために、2019 年度入学者から、神戸大学内に設置されたアドミッションセンターによって実施する第 1 次選抜の合格者に対し、各学部で実施する最終選抜を経て、大学入試センター試験を利用せずに可否を決定する新たな「志」特別入試を導入した。

海洋を巡る環境保全や技術革新の分野で我が国が世界のリーダーであり続けるために、海洋立国を牽引する人材の供給が求められており、本学部は広範な知識や経験が必要な海洋分野で積極的に課題を見出し、解決へ向けてチャレンジする人材を見出し育てて行かなければならない。そのため、一般 3 領域の「志」特別選抜を実施する。

また、海事社会から優れた海技士の輩出が期待されている海技ライセンスコースでは、特に海技士（航海・機関）への強い志向性や将来の進路を海上職へ向けた強い意欲を持つ学生の獲得が求められる。海技ライセンスコースで学ぶためには、基礎学力だけではなく、船上・洋上の特殊な環境下で実施される 1 年間（学部 6 月＋乗船実習科 6 月）の船舶実習への適性が重要となる。そのため、本学部のアドミッション・ポリシーに合致し、特に志向性が顕著な学生を選抜する必要があることから、海技ライセンスコースの「志」特別選抜を実施する。

募集人員及び選抜基準は以下のとおり。

### 【一般 3 領域】

海洋政策科学部海洋政策科学科の一般 3 領域は、海洋リテラシーを含めた広範な教養知識及び自然科学、科学技術、社会科学の専門知識を持った海のグローバルリーダー及びエキスパートとして国際海事社会の中で活躍できる人材を育成する。特に、本専門領域での学びを志望する学生には、将来の我が国の海洋政策や技術推進の先頭に立って海洋社会を牽引する高い能力が必要である。したがって、海洋に関する強い興味や自然科学、科学技術、社会科学に関する勉学への意欲に満ち、様々な課題の抽出と解決を楽しみながら全うできる精神力を持ち、判断力、行動力、及び協働性に優れた学生が求められる。そのため、一般 3 領域の「志」特別入試では、特に本学部のアドミッション・ポリシーに沿ってより具体性を持たせた次のような学生を求める。

- (1) 海洋に関する自然科学、科学技術、地球規模の物流・輸送や企業マネジメント、海洋に関する国際ルールに興味がある学生

〔求める要素：関心・意欲〕

- (2) 豊かな教養と高い倫理性、品格、豊かな感性を身につけ、海のグローバルリーダー及びエキスパートとして海事・海洋社会で活躍したい強い意思を持つ学生

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性〕

- (3) 自ら課題を設定して創造的に解決しようと努力する学生

〔求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性〕

- (4) 多様な価値観を尊重し、異文化のより深い理解に努めようとする学生

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕

【募集人員】 5 人

### 【選抜方法】

以下の第 1 次選抜及び最終選抜において段階的に合格者を決定する。

第 1 次選抜：理系科目重視型：「書類審査」「模擬講義・レポート(理系)」  
「総合問題(理系)」

文系科目重視型：「書類審査」「模擬講義・レポート(文系)」  
「総合問題(文系)」

最終選抜：第1次選抜の合格者に対して、共通の「模擬実習・面接・口頭試問」を実施する。

#### 【海技ライセンスコース】

海洋政策科学部海洋政策科学科の海技ライセンスコースは、海洋リテラシーを含めた広範な教養知識及び船舶職員に求められる能力を基礎として、海のグローバルリーダー及びエキスパートとして国際海事社会の中で活躍できる人材を育てることを目指している。特に、本コースを志望する学生には、海技士ライセンスを得るのに必要な船舶・運航に関する実践的な知識・技術・手法を高いレベルで修得することが求められる。したがって、船舶に対する興味やマネジメントに関する勉学への意欲を持ち、長期の船舶実習を楽しみながら全うできる精神力を持ち、判断力、行動力、及び協働性に優れた学生が求められる。そのために、本コースの「志」特別入試では、特に本学部のアドミッション・ポリシーに沿ってより具体性を持たせた次のような学生を求める。

- (1) 海技士ライセンス（航海・機関）資格の取得とともに、地球規模の物流・輸送や企業マネジメント、海洋に関する国際ルールに興味がある学生  
〔求める要素：関心・意欲〕
- (2) 豊かな教養と高い倫理性、品格、豊かな感性を身につけ、海のグローバルリーダー及びエキスパートとして海事・海洋社会で活躍したい強い意思を持つ学生  
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性〕
- (3) 自ら課題を設定して創造的に解決しようと努力する学生  
〔求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性〕
- (4) 多様な価値観を尊重し、異文化のより深い理解に努めようとする学生  
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕

【募集人員】10人

#### 【選抜方法】

以下の第1次選抜及び最終選抜において段階的に合格者を決定する。

- 第1次選抜：理系科目重視型：「書類審査」「模擬講義・レポート(理系)」「総合問題(理系)」  
文系科目重視型：「書類審査」「模擬講義・レポート(文系)」「総合問題(文系)」

最終選抜：第1次選抜の合格者に対して、共通の「模擬実習・面接・口頭試問」を実施する。

## 9 編入学定員を設定する場合の具体的計画

### 9.1 第3年次編入学試験

本学部のアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにより、本学部は、入学時から海洋リテラシー、海洋に関する専門領域への海洋を主体とする連続的な教育編成を構築している。そのため、第3年次編入学による入学者が本学部入学後、本学部のカリキュラム・ポリシーに則して修学でき、ディプロマ・ポリシーを満たす能力を身につけるためには、3年次の入学時点で少なくとも主専門領域の科目を学ぶために必要な基礎的知識と志向性を有する学生である必要がある。また、本学部のカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの達成の観点から、特に海洋系や海事系の教育機関からの編入者は海洋に関する基礎知識を身につけていることから第3年次編入生としてより好ましいと考えられる。特に、海技ライセンスコースへの編入学生は、船舶実習の関係から、商船高等専門学校が主な対象教育機関となる。編入学後のカリキュラム修得に支障がないレベルの学力が必要であることから、学力試験による選抜及び推薦による選抜を実施する。

募集コース等、募集人員及び選抜基準は以下のとおり。

- 海技ライセンスコース、一般3領域（募集人員：10人）
- 学力試験による選抜

対象者：海洋及び商船系の教育機関（高等専門学校・短大・大学）、工業高等専門学校の卒業生卒業見込み者または大学に2年以上在学している者

試験科目：数学、物理学

選抜基準：学力試験、TOEIC 又は TOEFL の成績及び成績証明書の結果を総合して選抜する。

- 推薦による選抜：

対象者：商船高等専門学校及び工業高等専門学校の卒業見込み者

出願資格：成績証明書の成績評価係数が2.6以上の者

推薦条件：高等専門学校からの推薦人数は、1校当たり2人以内とする。

試験科目：小論文

選抜基準：小論文及び面接・口述試験の結果を総合して選抜する。

### 9.2 編入学後の履修

3年次編入学生の定員は10名として募集する。3年次への進級率を80%~90%と見込めば、10名の3年次編入学生数は、学部定員の5%であり、十分受入可能な人数である。3年次編入学生の修業年限は2年とし、休学期間3年を認める。4年次において海洋総合科目を履修するためには、3年次において主専門領域の開設科目に関する十分な専門知識を修得しておく必要がある。また、一般3領域に編入する者には工業高等専門学校の卒業生も対象となるため、海洋に関する教養知識の修得の必要性から1年次の開講科目である「海洋リテラシー科目Ⅰ」の「海のガバナンス」と「海のサイエンス」の2科目は、既修得単位の読替えをしない科目とする。加えて、一般3領域及び海技ライセンスコースの編入学生に対する編入学時の単位認定の上限値は、卒業要件単位数124単位の50%の62単位と定める。したがって、卒業のために必要な単位数は、編入学時の認定単位数によるが、3~4年次で少なくとも62単位以上の取得を必要とする。なお、神戸大学ESDコース（学内外と連携しながら持続可能な開発のための教育を行うコース）の修了認定のために必要な科目「総合教養科目（ESDに限る）」の履修を認めるも

のとする。ただし、当該科目の修得単位は卒業要件単位には含めないこととする。

編入学後の履修モデルは基本的に第6章 6.5 節で示すモデルの3年次以降の履修とほぼ変わらない。ただし、一般3領域で学ぶ学生は、海洋リテラシーⅠの履修の必要性など、3年次においてそれらの開講時限の制約を受けることになるが、卒業までの履修の流れに大きく影響しないように週時表などで工夫をし、卒業の遅れが生じないように配慮する。既修得単位の読替え状況は個々の学生によって異なることから、クラス担任が卒業に必要な科目・単位の履修指導について丁寧に対応する。



## 10 管理運営

### 10.1 新たな部局長人事手続きの導入

本学では、大学のビジョン（2015年4月策定）や学校教育法の一部改正を踏まえ、学長のリーダーシップが発揮できるガバナンス機能の強化の一環として、部局長の選考方法を見直した。

具体的には、学長があらかじめ全学に示す「部局長人事方針」に基づき、部局の教授会は部局長候補者の選考を行い、学長が候補者へのヒアリングを行った上で部局長として任命する。

### 10.2 教授会及び運営会議

本学部に関し、教学に関する事項、学生の身分や厚生補導、その他本学部の管理運営上の重要事項を審議する機関として、教授会を置き、原則として毎月1回定例開催する。

また、運営会議は、議長となる学部長を中心に、副学部長、各種委員会委員長等で構成し、常設委員会等と連携して学部の教育研究目標や将来計画を含む全般的な企画に関する事項等の審議を行う。

なお、学部の業務を円滑に行うため、教学委員会、入試委員会、評価委員会、国際交流委員会、広報・社会交流推進委員会等の常設委員会を置く。

## 11 自己点検・評価

本学の教育研究水準の向上を図り、大学としての社会的使命を達成するため、「神戸大学における内部質保証の基本的な考え方」、「神戸大学内部質保証指針」を制定し、指針に基づいて全学及び各部局等の教育・研究、組織・運営、施設・整備等の活動状況について点検・評価を実施している。

点検及び評価並びにその結果の公表に関する事項については、学長・理事・各部局長等から構成される神戸大学評価委員会において審議を行うとともに、組織点検・評価に当たっては、自己点検・評価とともに外部評価（ピアレビュー等）を必ず実施することとしている。

本学における点検・評価は、以下の単位で実施している。

- (1) 各部局等の長（大規模な部局にあっては学科や専攻の長）による所属教員の教育研究活動等の年次点検（「教員点検」）
- (2) 各部局等の長による所属教員の教育研究活動等の評価（「教員評価」）
- (3) 各部局等の長による「組織点検・評価」
- (4) 神戸大学評価委員会による各部局等の「教員点検・評価」及び「組織点検・評価」に対する点検・評価（「メタ点検・評価」）
- (5) 神戸大学評価委員会による大学の総括的 point 検・評価

教員以外の職員の点検・評価についても、個人及び組織の単位で、各部局等において実施している。

神戸大学評価委員会は、各部局等で実施された点検・評価の手續・過程・結果等が本学の掲げるミッションの実現に適った妥当なものであるかどうかを点検・評価し、各部局等による点検・評価の集大成として大学の総括的 point 検・評価を実施する。

教育活動の組織点検・評価は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による大学機関別認証評価の大学評価基準等に準拠して実施している。

また、自己点検・評価に係る根拠資料の収集・蓄積に当たっては、神戸大学情報データベース（Kobe University Information Database : KUID）を活用し、点検・評価の作業自体が過剰な負担とならないように、合理的かつ効率的な仕組みの下で実施している。

国立大学法人評価、認証評価、大学の総括的 point 検・評価、及び各部局等による点検・評価に関する情報は原則として大学 Web サイトにおいて内外に公表している。

## 12 情報の公開

### 12.1 大学としての情報提供

本学は、世界トップクラスの国際的な教育研究拠点を目指している。このことを踏まえ、また、国内外から優秀な学生を受け入れるとともに国民や社会の負託に応えるべく、原則として、全ての教育情報を公表することとしている。

具体的な公表項目の内容やWebサイトURLは以下のとおりである。

- ① 大学の中長期計画と評価
- ② 大学の教育研究上の目的に関する事
- ③ 教育研究上の基本組織に関する事
- ④ 教員に関する事
- ⑤ 教育課程、成績評価基準、卒業・修了認定基準に関する事
- ⑥ 学生の教育研究環境に関する事
- ⑦ 学生納付金に関する事
- ⑧ 学生支援に関する事
- ⑨ 国際交流・留学に関する事
- ⑩ 学生生活に関する事

(①～⑩)を掲載しているURL：

[http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education\\_info/index.html](http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/edu/education_info/index.html)

⑪その他

・神戸大学規則集

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/plan-rules/>

・学部等の設置に係る情報

<http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/establish/index.html>

・大学評価について

<http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/evaluation/index.html>

### 12.2 海洋政策科学部としての情報提供

本学部の教育研究活動は、大学及び本学部のWebサイトに記載する。また、自己点検報告書や外部評価報告書による評価結果についても公表する。さらに、学部単位の広報パンフレットを作成し、カリキュラム上の特色や研究活動などに関する情報を公開する。

## 13 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

### 13.1 全学的な取組

神戸大学では、「教育憲章」及び「学位授与に関する方針」に掲げた教育目標を達成し、教育の質の更なる向上を図るため、「神戸大学の教育推進に関するFDガイドライン」を策定し、組織的なFD取組を実施・推進している。

FD取組を実施する全学的な組織としては、大学教育推進機構の下に「全学評価・FD委員会」を設置している。全学評価・FD委員会は各学部や研究科をはじめ、全学の関係者で構成され、大学教育に係る全学的な取組の評価に関すること、全学的なファカルティ・ディベロップメントの推進に関すること、その他評価及びファカルティ・ディベロップメントに関すること等を審議するとともに、年度ごとにFDの重点課題を定めて全学的なFD推進を図っている。

#### 【具体的な取組例】

- 全学及び各部局で実施するFDやピアレビューをとりまとめた「FDカレンダー」を作成、全学へ情報提供
- ピアレビュー（授業参観）や各種アンケートの調査結果等から教育力及び教育成果を検討し、授業及び研究指導の内容・方法の改善のための研修や講演会等を実施
- 新規採用教員に対し、本学のビジョン・歴史、構成員としての倫理・使命、教育実践・学生支援のための基礎的知識・技術等を身につけるための研修を実施

また、事務職員等の能力を向上させること、業務遂行に必要な知識・技術・技能を習得・発展させることを目的として各種のSD取組を実施している。

#### 【具体的な取組例】

- 幹部職員セミナーを実施（毎年度、テーマを設定）
- 海外学修プログラムのためのFD・SDセミナーを実施

### 13.2 海洋政策科学部の取組

海洋政策科学部の取組では、全学的なFD活動を踏まえ、教学委員会内にFD専門部会を設置し、学部内のFD活動について企画・立案・実施の予定である。

まず、学生、教員及び第三者による授業評価、教員相互の授業参観（ピアレビュー）を行い、授業内容・方法の改善など、教育の質の向上及び学生支援の充実に図る。

卒業要件には、主領域科目単位、副領域科目単位の修得を課しているため、各領域間で並列開講授業を実施する場合、科目間で履修者数に大きな偏りが生じる可能性がある。そのため、並列開講科目間の履修状況を調べ、著しい偏りがみられる場合、受講可能人数の拡大や時間割の調整を行う。

#### 【具体的な取組例】

海洋政策科学部発足後は、特に、アクティブ・ラーニングの充実に図った科目を対象としてピアレビューを行い、授業実施上の問題点を早期に解決・改善する。

## 14 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学は、学内外の関係機関等と連携し、学生及び卒業生のキャリア形成、就職活動及びボランティア・社会貢献活動の支援を行い、人材育成力の向上に資することを目的とした「神戸大学キャリアセンター」を設置し、学内のキャリア支援体制をネットワーク型で全学的に展開している。

このネットワークでは、各部局の就職委員会、各同窓会並びに大学生協、六甲台就職相談センター、学生団体、東京オフィス（キャリアセンター東京分室）、国際教育総合センター、学術・産業イノベーション創造本部等の自発的な活動と連携を取り、様々な情報の発信や相互の行事告知の協力などを行うとともに、各就職支援組織による意見交換会や情報共有を定期的に行いながら、他大学にはない独自の全学的キャリア・就職支援活動を行っている。

就職支援のみならず、「社会の中での自分の役割」や「職業や市民生活を通して社会に貢献する意味」を考えさせる教育にまで踏み込んでいるのが、キャリアセンターの独自性であり、現代社会のニーズに応え得る「人間性豊かな指導的人材」を輩出するために必要な取組である。

キャリアセンターにおける支援としては、全学年を対象とした総合教養科目（キャリア科目）「職業と学びーキャリアデザインを考えるA・B」（社会で活躍する神戸大卒業生によるリレー講義）の開講や、キャリア・デベロップメント・アドバイザー（CDA）資格を持つアドバイザーが個別の進路・就職相談で指導・助言を行い、学生の主体的なキャリア選択をサポートしている。また、CDA勉強会を定期的を開催し、キャリア支援の均質化や質の向上を推進しており、学生の社会的・職業的自立に資する体制を整備している。

海洋政策科学部においても、教学委員会内にインターンシップや就職支援を企画・立案・実施を行う専門部会を置き、専門部会委員による学生のキャリア支援（キャリアガイダンス等）を企画し、実施する。

# 資料目次

図表 1 学部・学科の構成

図表 2 4年間の学びの概要

図表 3 科目区分と概要

図表 4 海洋政策科学部の履修フロー

(a) 海洋基礎科学領域を主専門に選択した場合の履修フローの例

(b) 航海学領域を主専門に選択した場合の履修フローの例

図表 5 各専門領域及びコースの配属学生数

図表 6 科目の配当年次

図表 7 科目区分ごとの単位数の一覧

図表 8 学部開設科目一覧

図表 9 履修モデル

(a) 海洋基礎科学を主領域とする場合の履修モデル

(b) 海洋応用科学を主領域とする場合の履修モデル

(c) 海洋ガバナンスを主領域とする場合の履修モデル

(d) 海技ライセンスコースを主領域とする場合の履修モデル  
(主領域：航海学領域 副領域：海洋ガバナンス)

(e) 海技ライセンスコースを主領域とする場合の履修モデル  
(主領域：機関学領域 副領域：海洋ガバナンス)

図表 10 入学から卒業までの履修指導の概要

図表 11 3年次進級判定、「海のBDL」の履修許可判定及び卒業判定の概要

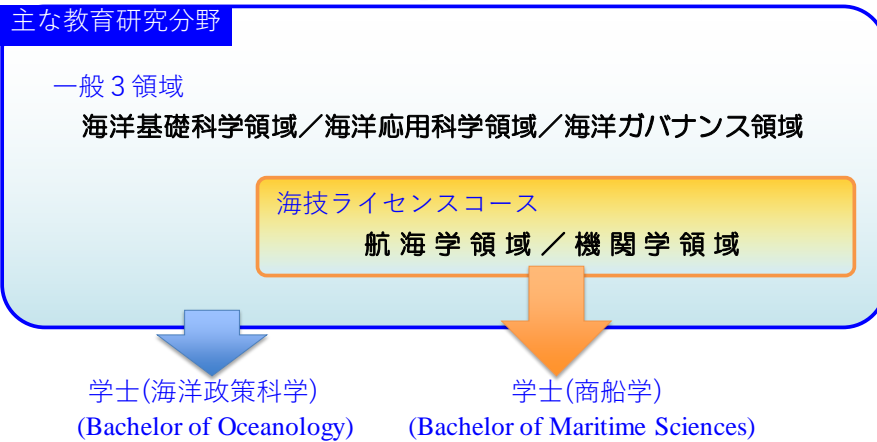
参 考 神戸大学ディプロマ・ポリシー

参 考 神戸大学カリキュラム・ポリシー

参 考 神戸大学アドミッション・ポリシー

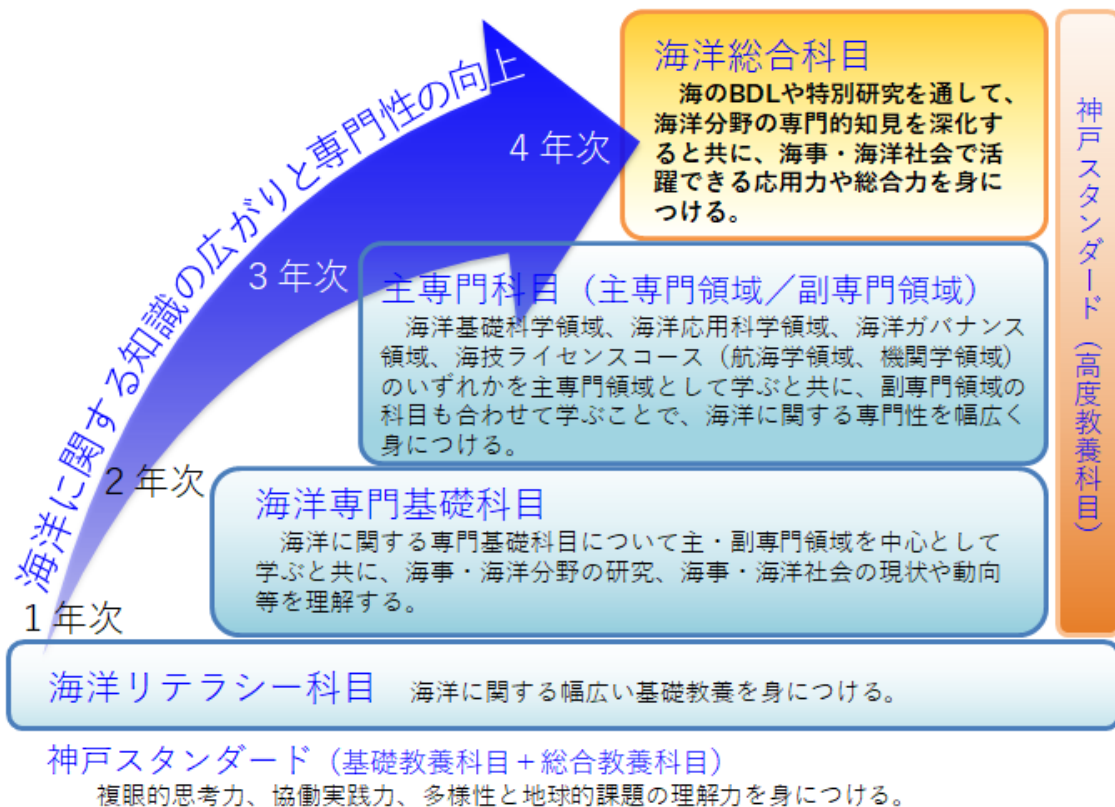
参 考 国立大学法人神戸大学職員就業規則

**海洋政策科学部 (Faculty of Oceanology)**  
**海洋政策科学科 (Department of Oceanology)**



領域／コース		概要
一般3領域	海洋基礎科学領域	理学的観点から、海洋に係る国際的課題や海洋政策を理解するとともに、海洋の成り立ちや、海洋を含む地球システムの物質循環、海洋及び地球環境問題や自然災害、海洋探査技術や海底資源、海洋再生可能エネルギーの開発に関する専門知識を修得することで、持続可能な海洋との共生に資する基盤技術や応用科学及び技術の発展に貢献する能力を身に付ける。
	海洋応用科学領域	工学的観点から、海洋に係る国際的課題や海洋政策を理解するとともに、船舶や海洋構造物、海底掘削技術など、将来の海洋技術開発に資するマリンエンジニアリングの専門知識を修得することで、海洋の有効活用を推進し、海洋の利用と開発に資する基盤技術や応用技術の創造と発展に貢献する能力を身に付ける。
	海洋ガバナンス領域	経済学など社会科学的観点から、海事・海洋分野における科学技術を理解するとともに、様々なモノ（人、物資、金融など）の流れ、国際ルール、地政、経済、経営、政策、戦略など海洋社会に資する社会科学分野の専門知識を修得することで、人類と海・船の歴史を踏まえ、将来の海洋の平和利用に貢献し、政策立案に寄与する能力を身に付けます。
海技ライセンスコース	航海学領域	商船学の観点から、船の運航技術と管理に留まらず、海洋政策科学分野の幅広い知識を学び、海技士（航海・機関）としての専門知識と技術を修得することで、海事・海洋社会に関する高い見識を備え、政策立案に寄与できる海のグローバルリーダー及び海のエキスパート（神大海技士）となる能力を身に付けます。
	機関学領域	

図表1 学部・学科の構成



図表2 4年間の学びの概要

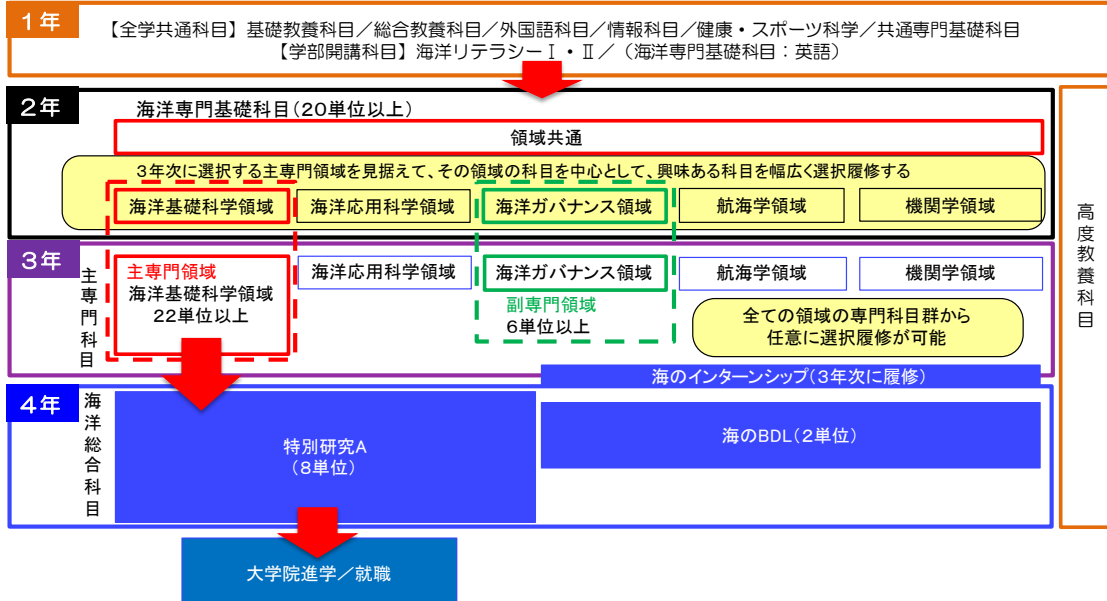


科目区分		科目内容
神戸大学共通の教養科目	基礎教養科目	人文系、社会科学系、生命科学系、自然科学系の科目群から構成される。神戸大学1年生全員が共通に履修する一般的教養科目
	総合教養科目	多文化理解、自然界の成り立ち、グローバルイシュー、ESD(持続可能な社会形成)、キャリア科目、神戸学、データサイエンスの科目群から構成される一般的教養科目。神戸大学1年生全員が共通に履修する一般的教養科目
	外国語科目	外国語第Ⅰ(英語)と外国語第Ⅱ(英語以外)の一般教養としての語学
	情報科目	情報基礎、情報科学などの一般教養としての情報系科目
	高度教養科目	高学年で学ぶ一般教養科目
	健康・スポーツ科学	健康・スポーツ科学の講義及び実習
	共通専門基礎科目	理数系の基礎科目群
学部開設科目	海洋リテラシー科目	海洋に関する専門分野への学際的学びに対する意識の向上を図り、海洋に関する教養的知識を身につける科目群
	海洋専門基礎科目	海洋に関する専門科目を学ぶために必要な専門基礎知識を広く身につけるとともに、実社会を正しく理解する力の涵養のために、海事・海洋分野の研究、社会、産業界の現状や動向等を理解することによって、自己と海事・海洋社会とのかかわりについて考えを深める科目群
	主専門科目 主専門領域 副専門領域	海洋に関する自然科学、科学技術及び社会科学の専門的知識及び技能を身につける。専門性を深めるための主専門領域及び専門性を広げるための副専門領域を中心に履修する科目群。特に、海技ライセンスコースでは、船舶運航及び海上輸送に関わるシステム全体を管理・評価できる専門的能力及び技能を身につける科目群
	海洋総合科目	1～3年次までに修学した海洋分野に関する広範な基礎知識や専門知識に基づいて、海のBDL、特別研究などの実践的科目を通じて、海と人間の共生と海洋に関わる社会的課題の抽出・解決に向けた能力を身につける科目群

図表3 科目区分と概要

## 履修の流れ（ケース1）

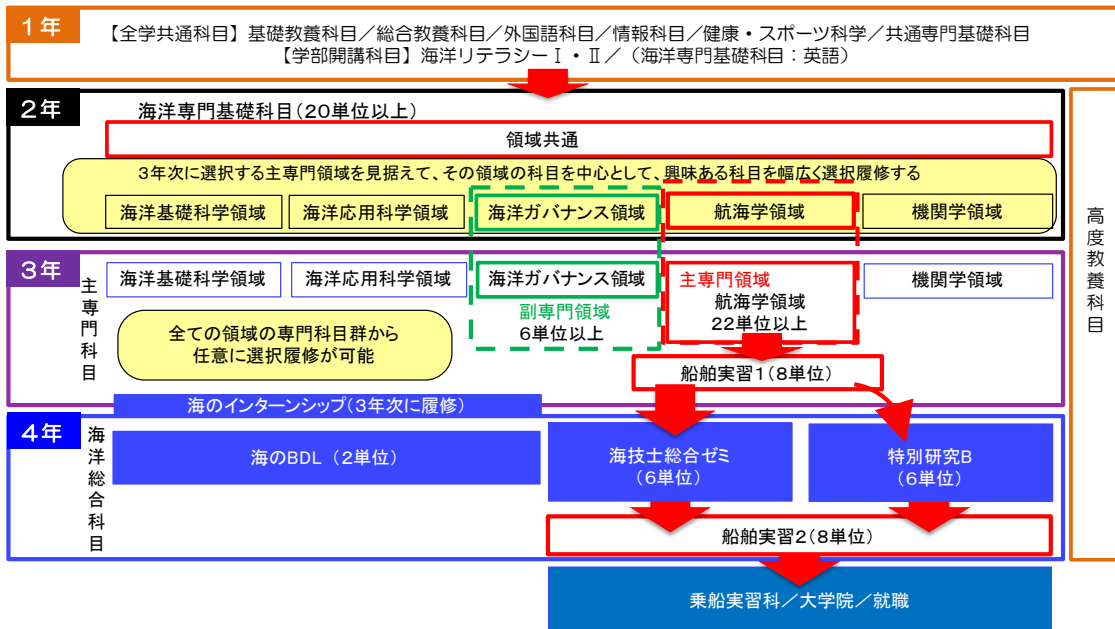
主専門領域「海洋基礎科学領域」、副専門領域「海洋ガバナンス領域」を選択した場合の履修フロー



図表 4 (a) 海洋基礎科学領域を主専門領域に選択した場合の履修フローの例

## 履修の流れ（ケース2）

主専門領域「航海学領域」、副専門領域「海洋ガバナンス領域」を選択した場合の履修フロー



図表 4 (b) 航海学領域を主専門領域に選択した場合の履修フローの例

図表 4 海洋政策科学部の履修フロー

コース等	領域名	配属学生数（人）
一般3領域	海洋基礎科学	30～50
	海洋応用科学	50～70
	海洋ガバナンス	30～40
海技ライセンスコース	航海学	～90
	機関学	

図表5 各専門領域及びコースの配属学生数

科目区分	授業科目等	配当年次
基礎教養科目		1年次
総合教養科目		1年次
外国語科目	外国語第Ⅰ	1年次
	外国語第Ⅱ	1年次
情報科目		1年次
健康・スポーツ科学		1年次
高度教養科目		2～3年次
共通専門基礎科目		1年次
海洋リテラシー科目		1年次
海洋専門基礎科目		1～2年次
主専門科目		2～4年次
海洋総合科目		4年次、一部3年次

図表6 科目の配当年次

授業科目の区分等		必要修得単位数	選択・必修
基礎教養科目		4	選択
総合教養科目		4	選択
外国語科目	外国語第Ⅰ (英語)	4	選択
	外国語第Ⅱ (英語以外)	4	選択
情報科目		1	必修
健康・スポーツ科学			選択
高度教養科目		4	選択
共通専門基礎科目		8	選択
海洋リテラシー科目	海洋リテラシーⅠ	3	必修
	海洋リテラシーⅡ	5	
海洋専門基礎科目		20	選択・必修
主専門科目		22 (主領域の主専門科目群から)	選択・必修
		6 (副領域の主専門科目群または 海洋専門基礎科目群から選択)	選択
海洋総合科目		10 or 8	選択・必修
他学部授業科目・その他必要と認める科目			選択
合 計		124	

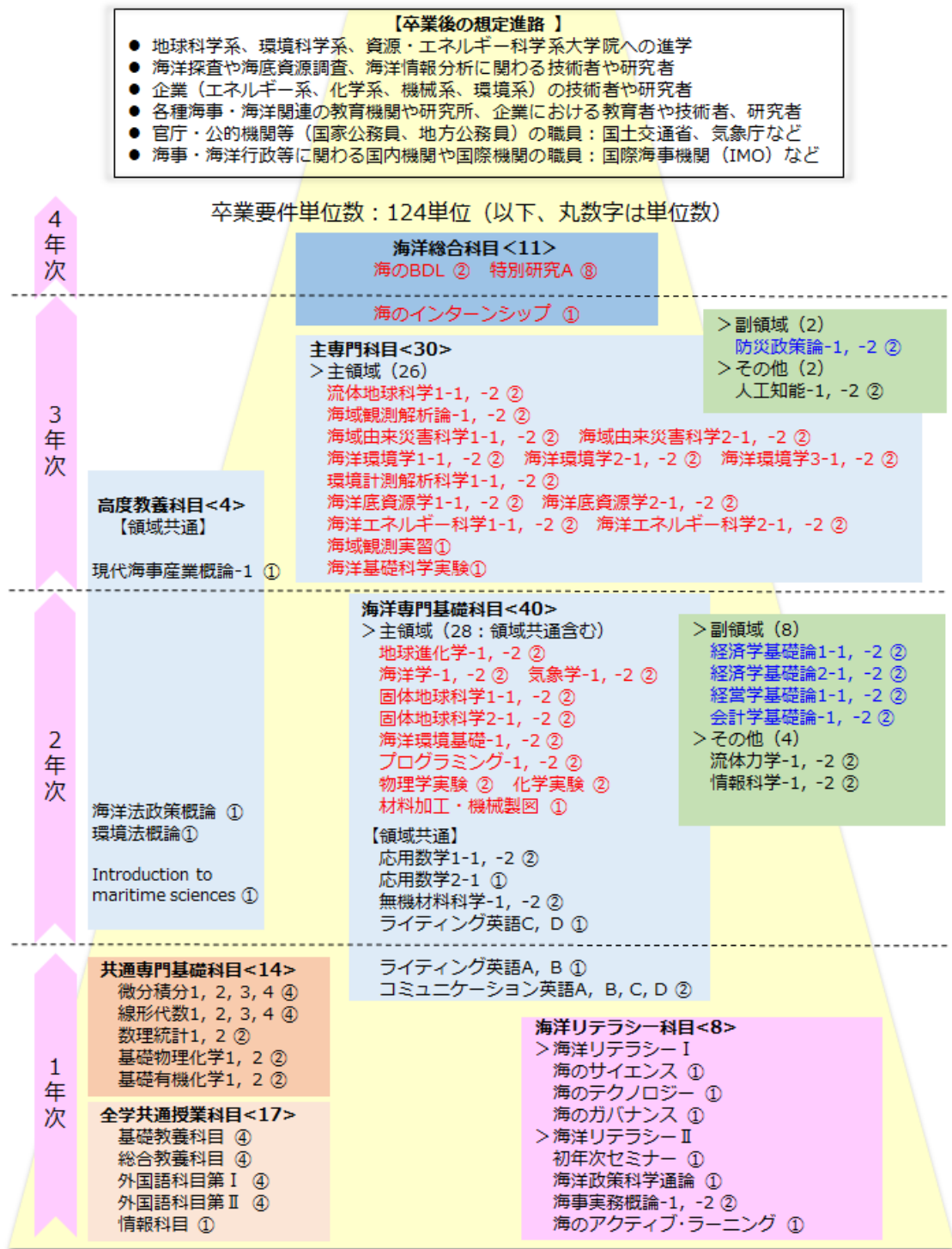
図表7 科目区分ごとの単位数の一覧

科目区分	学問分野	開 講 科 目
全学共通科目 (17)	教養	基礎教養科目(4)、総合教養科目(4)、情報科目(1)、外国語科目(8)、健康・スポーツ科学
高度教養科目 (4)	教養	Introduction to maritime sciences (1)、海洋法政策概論(1)、環境法概論(1)、現代海事産業概論-1,-2(2)、現代海洋政策概論-1,-2(2)
共通専門基礎科目 (8)	教養	微分積分 1,2,3,4(4)、線形代数 1,2,3,4(4)、数理統計 1,2(2)、力学基礎 1,2(2)、電磁気学基礎 1,2(2)、物理学入門(1)、連続体力学基礎(1)、基礎物理化学 1,2(2)、基礎有機化学 1,2(2)
海洋リテラシー 科目 (8)	海洋リテラシー I (3)	海のサイエンス(1)、海のテクノロジー(1)、海のガバナンス(1)
	海洋リテラシー II (5)	初年次セミナー(1)、海洋政策科学通論(1)、海事实務概論-1,-2(2)、海のアクティブ・ラーニング(1)
海 洋 専 門 基 礎 科 目 (20)	領域共通	応用数学 1-1,-2(2)、応用数学 2-1,-2(2)、応用数学 3-1,-2(2)、応用数学 4-1,-2(2)、熱力学-1,-2(2)、力学-1,-2(2)、電磁気学-1,-2(2)、環境分析化学-1,-2(2)、無機材料科学-1,-2(2)、コミュニケーション英語 A, B, C, D(2)、ライティング英語 A, B, C, D(2)
	海洋基礎科学領域	地球進化学-1,-2(2)、海洋学-1,-2(2)、気象学-1,-2(2)、固体地球科学 1-1,-2,2-1,-2(4)、海洋環境基礎-1,-2(2)、プログラミング-1,-2(2)、物理学実験(2)、化学実験(2)、材料加工・機械製図(1)
	海洋応用科学領域	流体力学-1,-2,-3,-4(4)、浮体静力学-1,-2(2)、材料力学-1,-2(2)、工業熱力学-1,-2,-3,-4(2)、電気回路-1,-2(2)、電子回路-1,-2(2)、制御理論-1,-2(2)、情報科学-1,-2(2)、プログラミング-1,-2(2)、海事産業技術概論-1,-2(2)、物理学実験(2)、化学実験(2)、材料加工・機械製図(1)
	海洋ガバナンス領域	海上保険概説-1,-2(2)、経済学基礎論 1-1,-2(2)、経済学基礎論 2-1,-2(2)、経営学基礎論 1-1,-2(2)、経営学基礎論 2-1,-2(2)、会計学基礎論-1,-2(2)、他部局科目(法、経済、経営)、海運政策概論-1,-2(2)、港湾政策概論-1,-2(2)、交通政策概論-1,-2(2)、国際法-1,-2(2)、国際関係論-1,-2(2)
	航海学領域	海上保険概説-1,-2(2)、航海航法-1,-2,-3(3)、航海計器-1,-2,-3(3)、航海学演習-1,-2,-3(3)、船舶運航概論(1)、海洋学-1,-2(2)、気象学-1,-2(2)、国際法-1(1)、国際船舶管理法論(1)
	機関学領域	海事産業技術概論-1,-2(2)、流体力学-1,-2(2)、材料力学-1,-2(2)、工業熱力学-1,-2,-3(3)、電気回路-1,-2(2)、電子回路-1(1)、制御理論-1(1)、物理学実験(2)、化学実験(2)、材料加工・機械製図(1)
主専門科目(28)	海洋基礎科学領域	【地球科学】流体地球科学 1-1,-2(2)、流体地球科学 2-1,-2(2)、海域観測解析論-1,-2(2)、海洋由来災害科学 1-1,-2,2-1,-2(4) 【環境科学】海洋環境学 1-1,-2,2-1,-2,3-1,-2(6)、環境計測解析科学 1-1,-2,2-1,-2(4) 【資源・エネルギー科学】海洋底資源学 1-1,-2,2-1,-2(4)、海洋エネルギー科学 1-1,-2,2-1,-2,3-1,-2(6) 【統計・数理科学】多変量解析 1-1,-2(2)、多変量解析 2,3(2) 【実験・実習】海域観測実習(1)、海洋基礎科学実験(1)
	海洋応用科学領域	【流体工学】流体シミュレーション工学-1,-2(2)、抵抗推進工学-1,-2(2)、浮体運動学-1,-2(2)、海洋波理論-1,-2(2) 【材料・構造力学】機械設計工学-1,-2(2)、材料加工工学-1,-2(2)、材料強度学-1,-2(2)、構造強度数値解析論-1,-2(2) 【熱工学】熱機関工学-1,-2(2)、伝熱工学-1,-2(2)、燃焼工学-1,-2(2) 【電気電子工学】応用電気回路-1,-2(2)、応用電子工学-1,-2(2)、電気機器-1,-2(2)、ロボット工学-1,-2(2)、パワーエレクトロニクス-1,-2(2) 【情報技術】計算機システム論-1,-2(2)、情報ネットワーク論-1,-2(2)、データベース論-1,-2(2)、インターフェース設計論-1,-2(2) 【数理・計画】アルゴリズム-1,-2(2)、数理計画法-1,-2(2)、確率モデル-1,-2(2)、人工知能-1,-2(2) 【統計・数理科学】多変量解析 1-1,-2(2)、多変量解析 2,3(2) 【実験・演習】海洋応用科学実験(1)
	海洋ガバナンス領域	【海洋経済経営】海運経済論-1,-2(2)、海運経営論-1,-2(2)、交通経済論-1,-2(2)、交通経営論-1,-2(2)、国際物流論-1,-2(2)

		【海洋法政策】海運政策論-1,-2(2)、港湾政策論-1,-2(2)、交通政策論-1,-2(2)、国際海洋法-1,-2(2)、国際社会論(1)、国際政治経済論(1)、防災政策論-1,-2(2)、エネルギー政策論-1,-2(2)
	航海学領域	航海航法-4,-5,-6(3)、航海計器-4,-5,-6(3)、船舶工学-1,-2(2)、海洋気象学-1,-2(2)、航海学演習-4,-5(2)、運用学実習-1,-2,-3,-4(4)、運用学演習-1,-2,-3,-4(4)、操船学-1,-2(2)、載貨論(1)、管理実務-1,-2(2)、海事英語(船舶実務)-1,-2,-3,-4,-5,-6(6)、海事英語(船舶通信)(1)、海事法規-1,-2(2)、海上交通法-1,-2,-3(3)、船舶衛生-1,-2(2)、運動科学-1,-2(2)、アクアティックアクティビティ演習(1)、船舶実習-1(8)、船舶実習-2(8)
	機関学領域	機関室資源管理-1,-2(2)、海洋生存技術演習(1)、実用海事機関英語-1,-2(2)、抵抗推進工学-1,-2(2)、浮体運動学-1,-2(2)、熱機関工学-1,-2(2)、伝熱工学-1,-2(2)、燃焼工学-1(1)、機械設計工学-1(1)、材料加工学-1,-2(2)、材料強度学-1,-2(2)、電気機器-1,-2(2)、エネルギープラント管理演習-1,-2(2)、エネルギープラント保全論-1,-2(2)、洋上プラント安全論-1,-2(2)、海事法規-1,-2(2)、船舶衛生-1,-2(2)、運動科学-1,-2、機関学実験(2)、船舶実習-1(8)、船舶実習-2(8)
海洋総合科目 (10 or 8)	一般3領域(10)	海のインターンシップ(1)、海のBDL(2)、特別研究A(8)
	海技ライセンスコース (8)	海のインターンシップ(1)、海のBDL(2)、特別研究B(6)、海技士総合ゼミ(6)

図表8 学部開設科目一覧

○履修モデル **主領域：海洋基礎科学** **副領域：海洋ガバナンス**

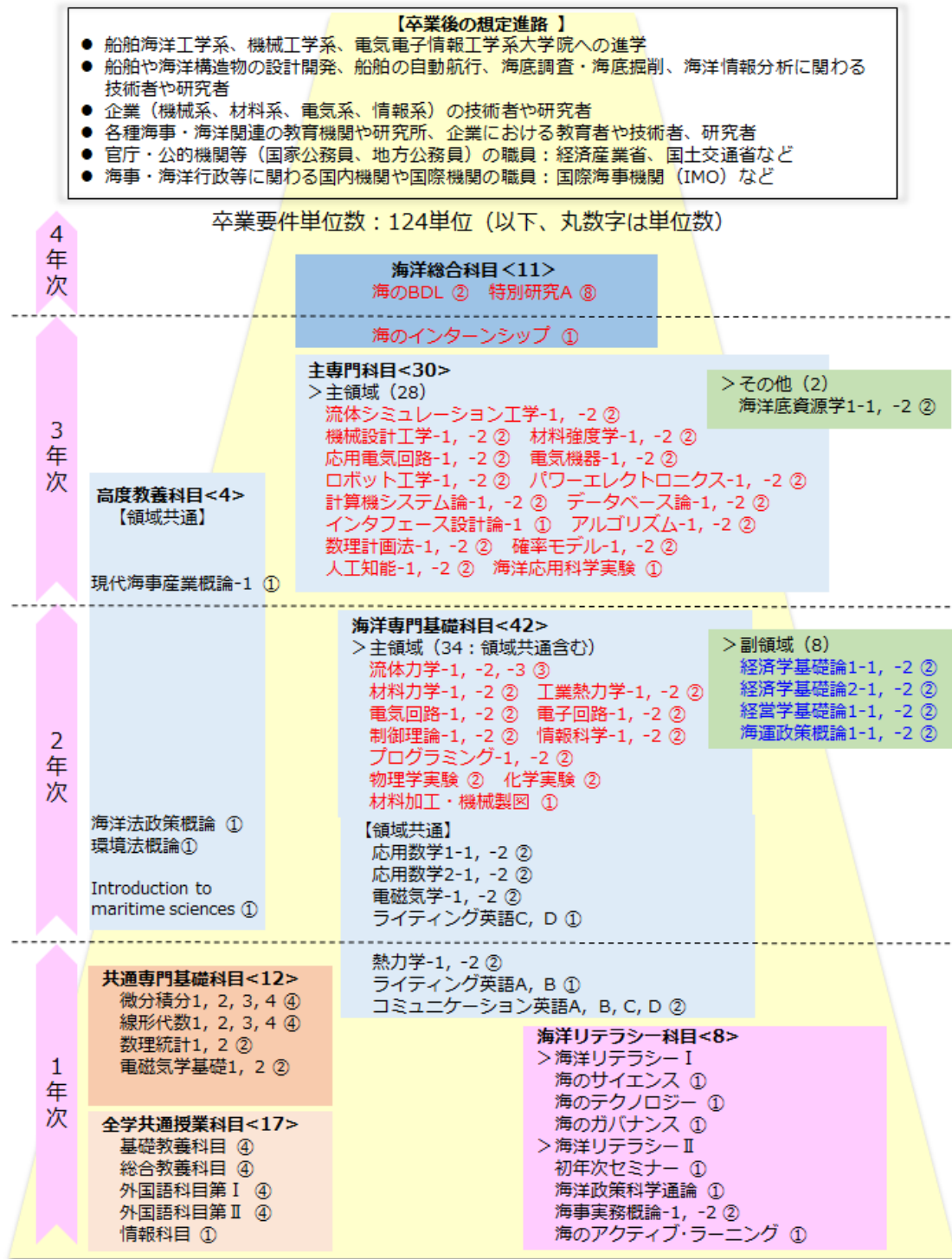


図表9 (a) 海洋基礎科学を主領域とする場合の履修モデル

図表9 履修モデル



○履修モデル **主領域：海洋応用科学** **副領域：海洋ガバナンス**



図表9 (b) 海洋応用科学を主領域とする場合の履修モデル

図表9 履修モデル